

研究題目 生態系情報とリンクした生物多様性データベースの作成
 所属機関名 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
 代表研究者氏名 日浦 勉

1. 研究の進捗状況、成果の現状と今後の見込み(概要)

1-1. 当初の計画

地表徘徊性甲虫については、平成 20 年度には、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 苫小牧研究林森林資料館が所蔵する5000件の生物標本について、データベース登録を行う予定であった。沿岸域の海産無脊椎動物については、厚岸臨海実験所附属愛冠自然史博物館が所蔵する 150 件の生物標本について、データベース登録を行う予定であった。

1-2. 上記に対し、見直した点

地表徘徊性甲虫については、ほぼ予定通りのデータベース作成が行われた。沿岸域の海産無脊椎動物については、平成 20 年度は、120 件の生物標本の登録を行った。当初計画より若干登録数が下回った理由として、所蔵されていた標本の多くに採集地や採集日時等の基本的情報が付記されておらず、Darwin Core 2 に基づいたデータベース作成ができなかったことがあげられる。

1-3. 今後の見込み

地表徘徊性甲虫、沿岸域の海産無脊椎動物ともに計画通り実施の見込みである（海産無脊椎動物は平成 21～22 年度に厚岸湾周辺で採集を行い、新たな生物標本およびそのデータ登録を 350-400 件程度行う予定）。

2. 作成データについて

生物分野	標本所有機関	標本所有数(概数)	データ源	表現形式	H20 年度作成データ数(日本語、英語)(予定)	H20 年度作成データ数(日本語、英語)(実績)	H21 年度作成データ数(日本語、英語)(予定)	課題終了時のデータ数(日本語、英語)(予定)
海産無脊椎動物	北海道大学	120(今後毎年約200ずつ増加)	一般標本	文字、画像	日本語:150件 英語:150件	日本語:120件 英語:120件	日本語:200件 英語:200件	日本語:500件 英語:500件
甲虫	北海道大学	16000(今後毎年約5,000ずつ増加)	一般標本	文字、画像	日本語:5000件 英語:5000件	日本語:5000件 英語:5000件	日本語:5000件 英語:5000件	日本語:25,000件 英語:25,000件

3. データ項目について

地表徘徊性甲虫、沿岸域の海産無脊椎動物ともに計画通り

4. データのクオリティ・コントロールについて

地表徘徊性甲虫、沿岸域の海産無脊椎動物の標本のデータベース入力においては、ともに経験のあるパラタクソニストが同定の上、チェックは専門家(北海道大学に所属する海洋生物の分類学者など)に依頼した。地表徘徊性甲虫のうちクロナガオサムシ属の雌個体の同定が困難であったので専門家が現在同定中である。

5. 課題終了後の運用について

地表徘徊性甲虫標本の一部は環境省生物多様性センターに収蔵することが内諾された。沿岸域の海産無脊椎動物単独では特になし。

6. 他機関、学会等との連携について

JaLTER データベースにもリンクすることが JaLTER 代表者会議で承認された。

7. 国内的・国際的寄与について

(単年度報告書では記載不要)

8. データ公開について

8-1. データ公開の問題点について

地表徘徊性甲虫の希少種については細かな生息地情報を公開することの是非を検討中。他は特になし。

8-2. システムの改修について

当初計画通り。

9. 推進体制

代表研究者	日浦勉、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、教授、053-0035 苫小牧市字高丘、環境省モニタリング1000（森林分野）との連携
参加研究者 （自機関・他機関を含む）	戸田正憲、北海道大学低温科学研究所、教授、分類学者との連携 仲岡雅裕、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、教授、環境省 モニタリング1000（沿岸分野）との連携 大手信人、東京大学農学生命研究科、准教授、JaLTER データベースとの連 携
雇用等を希望する アルバイト等	アルバイト 2 名（データ入力）
アドバイザー委員会	JaLTER にあり
ワーキンググループ	JaLTER に情報委員会あり

10. スケジュール

	H20 年度	H21 年度	H22 年度
データ作成・入力	△ 同定		→
試験公開	→ 自機関※	→ GBIF 日本ノード	
公開		自機関 GBIF 日本ノード	→ →
その他	JaLTER データベースと の連携 △ 会議		→

※ <http://ikegam2.fsc.hokudai.ac.jp/>